

RIETI 特別講演会

ノーベル賞経済学者 ジェームズ・ヘックマン教授「能力の創造」

コメント

RIETI客員研究員 シカゴ大学ラルフ・ルイス
記念特別社会学教授 山口一男氏



か。ホワイトカラーとブルーカラ
ーで生産的非認知力は同じなの
か。

非認知力のひとつとされる協調性
は日本ではプラスだが米国にはマ
イナスだ。協調性の重視は、イン
ベーションを生む妨げになる側面
もある。就学前の人材投資につい
ては、すべての就学前児童に対し
て能力開発をすべきなのか、対象
を絞ってやるのがよいのか。後者
には家庭環境の何が差を生むかの
実証研究が重要だ。

RIETI顧問 京都大学名誉教授
京都女子大学客員教授 橘木俊昭氏



では、人間の一生を考えたとき
子供が学校に入る前どのような
環境で育つかが非常に重要だとい
うことだ。ヘックマン教授の講演
では、人間の一生を考えたとき、
子供が学校に入る前どのような

教育を行うかが非常に重要だとい
うことが分かる。
教授への質問は4つある。まず、
一人親家庭の子供の面倒は誰が見
ればよいのか。次に、3歳児神話
についてはどう考えるのか。さら
に、家庭の所得が影響する日本特
有の学校外教育はどう考えるか。
最後に日本政府が教育支出を増や
すためにはどうすればよいのかだ。
アドバイスを欲しい。

質疑応答

ヘックマン教授の回答(抜粋)

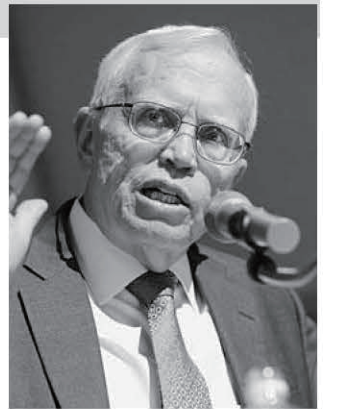
家庭か施設かの二者択一ではない



モデレーターを務めた、R
IETIファカルティフェロー・
東京大学大学院経済学研究
科公共政策大学院教授の
市村英彦氏(右)と慶應
義塾大学経済学部教授の
赤林英夫氏

女性の社会進出に伴う家庭の役
割の見直しは世界的潮流であり、
戻すことはできない。高学歴の母
親はますます社会参加している
が、子育てにも多くの時間を割い
ている。さらに、社会的に有利な
家庭は、質の高い教育サービスの
利用も可能だ。
不利な家庭であれば、保育施設
が子供に質の高い生活を提供し、
親の子育て方法にも助言すること
で、子供にとっての社会的環境
の不公平性緩和にも貢献する。
つまり保育施設を、親代わりと見
なすのではなく、子供の可能性を
広げるためのパートナーと考える
べきなのだ。

シカゴ大学ヘンリー・シュルツ特別待遇経済学教授 ジェームズ・ヘックマン氏



親の子育て、学校教育、職場や
仲間、指導者によって形成される
「能力」。経済産業研究所(RI
ETI)は10月上旬、ノーベル経
済学賞受賞者のジェームズ・ヘッ
クマン・シカゴ大学教授を招き、
「能力の創造」と題した講演会を
東京都内で開いた。経済学、心理
学、神経科学の観点から、能力形
成に関する最新の研究成果を紹介
しつつ自身の主張を展開した。集
まった聴衆は熱心に耳を傾けた。

世界的に所得格差の拡大が進
み、また、世代間で社会的移動
性の低下が懸念されている。伝統
的な福祉国家は貧困層への所得再
分配政策を取ってきた。

経済格差に関する実証研究によ
れば、格差の主因は個々人の能力
の違いである。能力は多元的で、
学力テストなどの認知力だけでと
らえられるものではない。個人の
性格特性ともいえる、外向性の性
格、情緒の安定性、新しい経験や
知識の受容性、勤勉性、協調性な
どの「非認知力」も、広い意味で
の能力に含まれる。

これらの非認知力は結婚、生活
保護の受給、投票行動、健康状
態、賃金など社会生活上の様々な
結果に影響するという実証結果が

所得再分配だけでなく子育て中の家庭支援による 幼児期の発育環境の改善を

得られている。そして、認知力、
非認知力の個人や集団間での差
は、共に小学校入学前から観察さ
れ、在学中は学校の質に大きな差
があるにもかかわらず開かない。
これは遺伝が果たす役割の重要
性を示すものだ。解釈しうるが、
遺伝的素質が開花するにも環境が
重要だし、そもそも遺伝情報その
ものが環境から影響を受けている
という証拠が出てきている。最近
ではこれは、むしろ家族環境の重
要性を示すものと解釈されている。
能力の個人差は家族による投資
や家族環境の違いに対応している
ことが分かっている。例えば良い
家庭環境に育った子供はそうでな
い子供よりすでに3歳の時点で使
う語彙数ははるかに多い。発達
が遅れている子供は、幼少期の環境
に恵まれていないことを多くの研
究が示している。そして人生初期
における不利な環境が、長期にわ
たり犯罪、健康、教育、社会参
加、人を信頼する態度、投票行動
などに影響し続けることを様々な
分野の実証研究が示している。

人生初期における環境は重要であ
るが、恵まれない環境に育った子供
の能力を成人以降に一定程度回復さ
せることは可能であることを示す実
証研究も多い。その場合、20歳前後
における最も効果的な投資は、個人
の性格に関わる能力を長きメンター
(助言者)や正しい情報提供を通じ
て醸成することである。青年期以降
の職業訓練も、学校や職場で長きメ
ンターを得て行われれば効果的とい
う実証もある。

成人してから認知力に対する投
資のリターンは低い。早期の介入
のリターンは高く、特に、社会的に
恵まれない子供への投資のリター
ンは高い。能力の向上により後の
能力の向上が容易になる。つまり能
力は能力を生む。

以上の研究成果をまとめると、再
分配政策だけでなく事前分配を、事
後的矯正だけでなく予防を、という
ことだ。また、事前分配としてはお
金・物だけでなく、家庭での子育て
を支援し、親の養育行動を改善し、
子供に良い環境を与えることを目的
にすべきだ。

RIETI
Research Institute of Economy, Trade & Industry, IAE

経済産業研究所
http://www.rieti.go.jp

本特別講演会については、RIETIホームページにて配布資料を掲載しております。
本内容は要点を掲載しており、詳細は、後日、サマリー掲載および動画配信をする予定です。

広 告

企画・制作＝日本経済新聞社
クロスメディア営業局